

埼玉県川越比企地域医療構想調整会議
第3回坂戸鶴ヶ島地区部会 開催状況

1 開催方法

書面による開催

照会期間：令和6年2月9日（金）～2月22日（木）

対象者：坂戸鶴ヶ島地区部会委員のうち医師会、病院及び市町・保健所
選出委員 計9名

回答者数：1名（意見がない場合は回答不要との前提で通知した。）

2 内容

第8次埼玉県地域保健医療計画（案）に基づく病床公募について

（回答者1名からいただいた御意見）

- ① 回復期リハビリテーション病床については、例年急性期医療機関からの転院患者数減少により病床稼働が低下する時期がある。
逆に冬場は転院患者数が増え、転院までの期間が少し長くなることもあるが、それでも紹介患者の平均待機日数は概ね2週間程度である。この事を考慮すれば実感として当地域で回復期は通年充足していると考え、また急性期、回復期、慢性期のバランスも良く成り立っていると考え。
 - ② 全国上位の高齢化が進む埼玉県が2040年までは高齢化人口が増加するとしても、次計画で更に回復期機能を有する病床を254床増床することは既存病院の病床稼働率の低下を招く恐れがある。
 - ③ 各医療機関とも医療スタッフ（看護師等）の確保に大変苦慮している中、更なる増床は医療スタッフの取り合いで更に深刻な人員不足が起こり、結果、病院機能の低下、地域医療の質の低下を招くことにつながる。
 - ④ 地域に地域包括ケア病床などが増床されたりすると近隣の老健施設の入所稼働率が落ち込むことも実感として持っている。
- 以上を踏まえ、これ以上の増床計画は現実的ではないと考える。